

迫害下にある教会のための国際祈禱日

idopp
INTERNATIONAL DAY OF PRAYER
FOR THE PERSECUTED CHURCH

2022

信仰に堅く立って

6 TH AND 13TH NOVEMBER 2022

2022年11月6・13日

COUNTRIES IN FOCUS

祈りのガイド

PRAYER GUIDES

IDOP 2022

迫害下にある教会のための国際祈禱日 2022

「信仰に堅く立って」

ナイジェリア、インド、アルジェリアからアフガニスタンに至るまで、クリスチャンに対する迫害は、世界中でこれまでになく激しくなっています。こんにち、3億6千万人のクリスチャンが高いレベルの迫害に直面せざるを得ない地域に住んでいます。これは、7人に1人のクリスチャンが世界で迫害下にあることを意味します。

世界中の多くの地域で、毎日のようにクリスチャンは傷つけられ、差別を受け、無実にもかかわらず投獄され、信仰のゆえに殺害されてさえいます。クリスチャンへの迫害を伝えるワールド・ウォッチ・リストによると、2021年に5000人以上のクリスチャンが、主イエスさまに対する信仰のゆえに殺害されました。これは驚くべき数です。

聖書は「敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます」と言っています(2テモテ3:12)。けれども、それがすべてではありません。聖書で主イエスさまは「世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました」(ヨハネ16:33)と言っているのです。

ですから、迫害は信仰者にとっての敗北では決してありません。

「迫害下にある教会のための国際祈禱日(IDOP)」を通して、世界中の教会がキリストにあって迫害を受けている兄弟姉妹の課題に注目し、祈ります。



クリスチャンは世界中で、その信仰を証ししていますが、信教の自由を保障されていない国々も多くあります。事実、国際人権協会(International Human Rights Society)によると、世界の宗教的迫害の80%がクリスチャンに対するものです。IDOPにおいて、私たちは迫害下にあるクリスチャンのために祈る機会があります、それは同時に迫害されている兄弟姉妹を励まし、支える機会にもなっているのです。

この20年以上にわたって、IDOPを通して何百万ものクリスチャンが、迫害下にある兄弟姉妹のために一つとなって祈ってきました。迫害下にある兄弟姉妹は、多くの必要がありますが、もっとも緊急で、何よりも必要としているのは、祈りです。ヘブル書13章3節で、聖書は虐げられている人々のために祈るよう命じています。言い換えるなら、聖書は聖書は私たちに、思いやりをもって、また心をついにして、迫害を受けている人々を覚えて祈るよう勧めているのです。からだの一部分が苦しむなら、すべての部分がともに苦しむのです(1コリント12:26)。

11月、世界福音同盟(World Evangelical Alliance)は世界中の教会に、IDOPに加わり、主イエスへの信仰のために苦しみを受けている兄弟姉妹のために連帯を表明するよう招いています。その苦しみは私たちの想像をはるかに超えるものです。祈りによって一つになりましょう。たとえ、多くの苦難の中でキリストに仕えていても、聖霊が迫害下にある兄弟姉妹を強め、信仰に堅く立たせ、キリストに従うことができるように祈りましょう。同時に私たちは祈りながら、迫害下の兄弟姉妹を支えることを決意しましょう。彼らは、世界大の神の御国が進展する中であって、迫害の最前線に置かれているからです。

祈りの交わりにあって

トーマス・シュールマツハー

世界福音同盟・総主事

インド

人口12億の約2%がクリスチャンです。ヒンズー至上主義の「民族義勇団(RSS: Rashtriya Swayamsevak Sangh)」などは、人々を強制的に改宗させていると教会や牧師を断罪して、日常的に彼らを差別し、暴力を振るっています。ある教派グループによると、2017年から2021年にかけて、1年間に平均350件の暴行事件やが教会の器物損壊事件が記録されています。2021年には、クリスチャンに対する暴行の件数は、前年から74%も増えています。インド国憲法は信教自由を保障していますが、州レベルでは、回心を禁じる法律を制定して、クリスチャン信仰の自由を奪い、教会や教会のリーダーに対する迫害の火に油を注いでいます。現在、11の州において回心を禁じる法律が定められています。2021年、マダヤ・パラデシュ州では、回心を禁じるだけでなく、「法を犯して回心し、有罪と認められた人」に対して、10年以上の懲役刑が加えられました。

祈祷課題:

- 牧師とその家族に神さまのみ守りがあるように
- 社会から敵意を向けられる環境の中で福音を伝えている教会リーダーに、神さまの知恵が与えられるように
- 回心を禁じる法律が国際的な人権基準に則った法律に変更されるように、または再検討されるように
- クリスチャンに暴力を振るう過激派グループを権威者たちが黙認することなく、そのような社会の流れに歯止めをかけるように



アルジェリア

アルジェリア人口4300万の約99%はスンニ派のイスラム教徒です。クリスチャンは13万5千人ぐらいだと考えられます。アルジェリア憲法によると、国家宗教はイスラム教です。信教の自由は法律で認められていますが、教会は、国家から組織的な差別を受けています。その結果、国全体で教会が強制的に閉じられることが起こっているのです。2018年以降、公的な認可を得ていないとして、権力者は少なくとも16のプロテスタント教会を強制的に閉鎖し、他の教会も閉鎖に追い込みました。

非イスラム教グループのための国家委員会が教会の認可を発行していますが、教会リーダーによると、2006年以降、教会の認可は一件も発行されていないそうです。教会リーダーは、人々を改宗させ、礼拝などの教会活動を行うことでイスラム教への冒瀆罪に問われ、起訴されるという課題にずっと直面しています。ある教派グループによると、アルジェリアでは、少なくとも12名のクリスチャンが、冒瀆罪で投獄されているそうです。

祈祷課題：

- アルジェリア国家がすべての人に信教の自由を保障するように
- 権力者が強制閉鎖した教会の再開を認めるように
- 権力者が教会に対する差別を止めるように
- クリスチャンを迫害する過激派グループが、信仰者に対して行っている起訴や有罪判決を取り下げるように



スリランカ

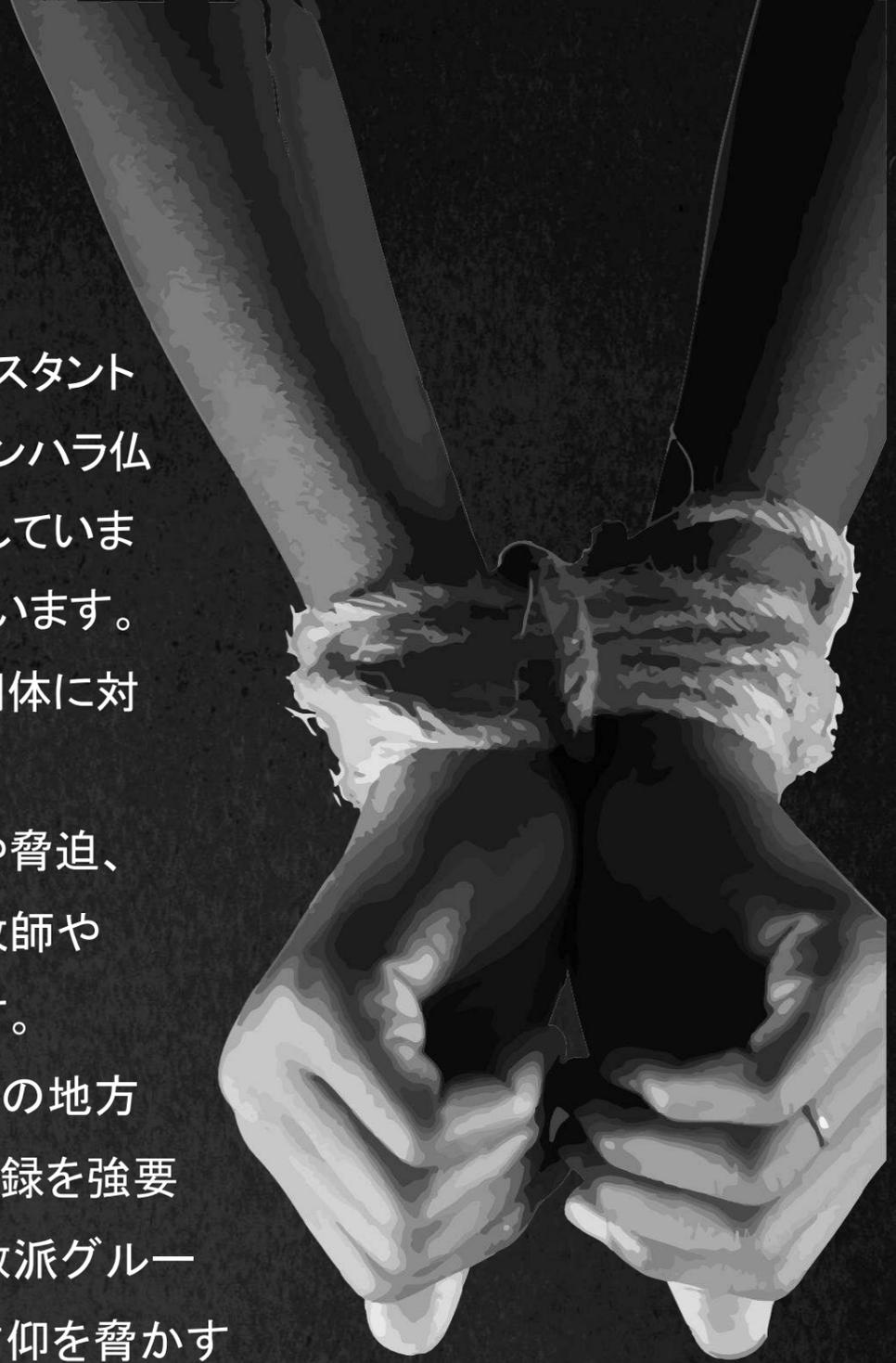
スリランカの2千100万の人口に対してプロテスタントのクリスチャンは約1パーセントです。70%はシンハラ仏教徒です。スリランカ憲法は、信教の自由を保障していますが、仏教国であり、仏教に特別な地位を与えています。2009年に内戦が終わってから、クリスチャン共同体に対する暴力事件が100件以上も起こりました。

国家の公的機関からクリスチャンに対する差別や脅迫、また地域の人々からのいじめや暴力などです。牧師や牧師家族はこういった迫害の標的にされています。

法的な根拠がないにもかかわらず、特に田舎の地方では、権力者が礼拝の場所を監視対象として登録を強要したり、礼拝ができないようにしています。ある教派グループによると、過去2年にわたり、クリスチャンの信仰を脅かす事件の67%で、政府、自治体関係者が積極的あるいは消極的に犯罪に加担しているとのこと。

祈祷課題：

- スリランカの地方で奉仕している牧師と牧師家族に神さまのみ守りがあるように
- 政府、自治体関係者がクリスチャンを差別するような行動をとらないように
- 礼拝の場所を強制登録するようなことが取り消されるように
- 教会が信仰に堅く立って、さまざまな課題にもかかわらず福音に仕え続けることができるように



アフガニスタン

アフガニスタン人口の90%はイスラム教スンニ派で、9%がシーア派です。正確な数は分かりませんが、数千人のクリスチャンがアフガニスタンにはいると考えられています。イスラム教国家として、イスラムからの教えから離れることは法律と伝統によって禁じられています。たとえば、アフガニスタンのイスラム法によれば、回心あるいは背教は、死罪に値する犯罪です。2021年にタリバン勢力が国を支配するようになって、多くのクリスチャンが国を離れ、またこれから離れようとしています。国内に残っているクリスチャンは安全ではなく、深刻な脅威にさらされています。女性の回心者はイスラム教信者と強制結婚させられるか、家に監禁されています。また家族から、身体的に、精神的に暴力を受けています。クリスチャン男性は、投獄されたり、拷問を受けたり、死の脅威にさらされています。2022年のワールド・ウォッチ・リストによると、アフガニスタンは、クリスチャンとして生きるためにはもっとも危険な場所であると報告されています。

Prayer points:

- アフガンにいるクリスチャンに神さまのみ守りがありますように
- 神さまがアフガンで地下に隠れて信仰を守っている信仰者を励まし、信仰に堅く立たせてくださるように
- より民主的な支配となり、アフガニスタンでの人権が保障されるように
- 神さまがクリスチャンを迫害する人々の心に触れて、変えてくださるように



